

フンデガーロボットドライブ導入

大型部材の加工力高まる

中 東

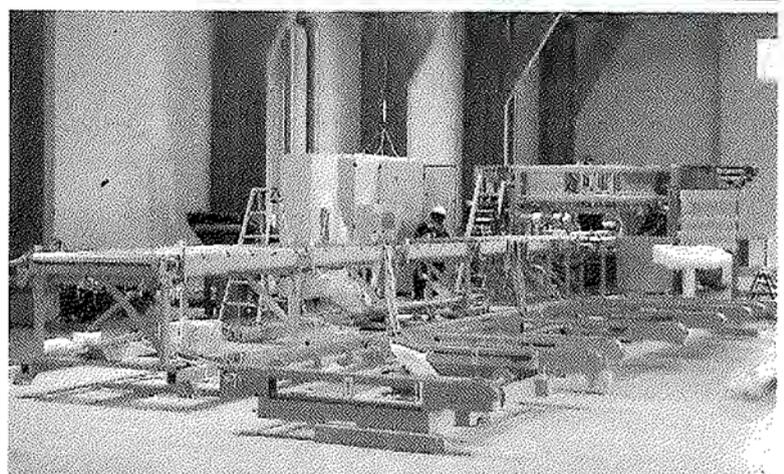
中東（石川県能美市、小坂勇治社長）は、大断面集成材やCLT加工用としてフンデガーロボットドライブを新規導入した。今月後半に試験加工を行い、今月末から本格稼働する。

同社では既存設備としてフンデガーK2iを3台備えていたが、今回はそのうちの1台とロボットドライブを入れ替えた。既存設備のうち1台は幅1250ミミまで加工対応しているが、中・高層物件

向けの大型部材の加工需要が増えているため、同様に幅1250ミミまで加工可能なロボットドライブ導入に踏み切った。

3台体制に刷新され、大型部材の加工力が充実した。ロボットドライブの新規導入と同時に、ネットイーグルのCADも3台新たに導入している。既存CADと合わせてCAD体制も拡充され、生産性の向上が図られた。

同社の大断面集成材とCLTの生産・加工は2021年も堅調で、工場や倉庫、教育施設などの民間を中心とした非住宅木造物件を全国から受注している。加工力の高さだけでなく、施工まで手掛



稼働に向けて準備が進むフンデガーロボットドライブ

原料は安定調達ルートを確認立しており、昨年中に在庫を確保した。米松もあらかじめ調達できている。ただ、米松は今年に入って産地からの供給が不足しているため、今後受注する新規物件に関してはカラ松仕様転換を提案していく考えだ。

また最近では既存取引先から、ラミナ持ち込みによる管柱など一般住宅用部材の生産依頼も増えている。